

特集

産業医・産業看護職・衛生管理者の情報ニーズに応える

産業保健21

2006.7 第45号

「産業医インタビュー」

庭山外科医院 院長 庭山昌明さんに聞く

「メンタルヘルス・メモランダム」 パワー・ハラスメントについて

過重労働による健康障害
防止のための総合対策と面接指導の実際



独立行政法人労働者健康福祉機構

職場復帰支援のはざままで

産業保健推進センター利用者の声から

静岡産業保健推進センター 相談員（産業医学担当） 住吉 健一

最近では「職場復帰」に関連する相談を受けることが多くなった。静岡産業保健推進センターでは平成14年度に「職場復帰支援システム」という書式を開発して県下に広報活動を行ってきたので、そのせいもあるかもしれないが、一般事業場において「メンタルヘルス不調」からの職場復帰が、日常茶飯事として起こりはじめている現状がうかがわれる。

相談者は主として看護職・人事担当者などで、相談内容は職場復帰システム・リハビリ勤務などの制度面の問題から、個別事例に関するものまで幅広い。しかし相談者の多くから一致して聞かれる声に、医師（産業医と主治医の両者を含む）との情報交換の困難性がある。産業医は選任されているがうまく機能していない、主治医とうまく連携が取れないので受け入れに不安がある、などである。もちろん個人情報保護の立場から健康情報



のプライバシーを保護するのは当然であるが、それがスムーズに伝わらないことが職場復帰を妨げているとしたら悲しいことである。

最近、厚生労働省から公表された「職場復帰支援の手引き」や「労働者の心の健康の保持増進のための指針」などを参考にしながら、すこしでも職場復帰支援のお手伝いができたらと思う。

産業保健推進センター業務案内

1. 研修

産業医、保健師等に対して専門的かつ実践的な研修を実施します。各機関が実施する研修会に教育用機材の貸与、講師の紹介を行います。

2. 情報の提供

産業保健に関する図書、教材等の閲覧・貸出・コピーサービスを行います。また、定期情報誌を発行します。（コピーサービスについては、実費を申し受けます）

3. 窓口相談・実地相談

専門スタッフが窓口、電話、インターネットで相談に応じます。現地での実地相談にも応じます。

4. 地域産業保健センターの支援

小規模事業場に対して健康相談等を実施している地域産業保健センターの活動を支援しています。

5. 広報・啓発

職場の健康管理の重要性を理解していただくため、事業主セミナーを開催します。

6. 調査研究

産業保健活動に役立つ調査研究を実施し、成果を提供します。

7. 助成金の支給

小規模事業場が共同で産業医を選任し産業保健活動を実施する場合、助成金を支給します。また、深夜業に従事する労働者が自発的に健康診断を受診した場合、助成金を支給します。



特集

過重労働による健康障害防止のための総合対策と面接指導の実例

「過重労働による健康障害防止のための総合対策」のポイント 厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課

個人・組織の両面から原因を見究め適切な介入を 富士ゼロックス株式会社 全社産業医 河野 慶三

人事労務との連携により長時間残業者を的確に把握 宮地内科 産業医 宮地 喜久子

4

連載

産業医インタビュー

庭山外科医院 院長 庭山 昌明さん

2

センターだより

富山産業保健推進センター

塩谷・南那須地域産業保健センター

12

小規模事業場産業保健活動

支援促進助成金のご案内(産業医共同選任事業)

活用事例

制度を利用し協力会社社員の健康指導充実を 東京都千代田区 向井建設株式会社

14

産業医活動マニュアル! 3

事業場外資源の活用(外部諸機関との連携)

新日本製鐵株式会社 君津製鐵所 加藤 憲忠

16

作業環境管理・作業管理入門! 3

労働時間などの管理・改善

(有) 山川医療企画 代表 労働衛生コンサルタント 山川 和夫

20

勤労者医療活動レポートU

アスベスト関連疾患の遺伝子研究、早期診断法、

新しい治療法など先進的医療の開発と推進に向けて

岡山労災病院・アスベスト関連疾患研究センター

24

情報スクランブル

研鑽を積み「産業保健」のさらなるステップアップを・第79回日本産業衛生学会が開催/産業社会がメンタルヘルス対策の範と示す!・第13回日本産業精神保健学会/喫煙対策で「全館禁煙」の事業場が倍増、2割超に・厚生労働省まとめ/許容濃度などの新提案が行われる・第79回日本産業衛生学会「許容濃度等に関する委員会」

27

情報クリップ

新しい日本の産業保健活動に向けて -これまでの課題とこれからの戦略-

29

産業保健この一冊

医療機関での産業保健の手引き

東京慈恵会医科大学 環境保健医学教授 清水 英佑

29

実践・実務のQ&A

アスベストが関係して発症する肺がんの種類は?/多数の小規模事業場を有する企業の産業保健体制の構築

30

産業看護職奮闘記 \$4

モットーは「気長に、あきらめず、繰り返し」 株式会社東奥日報社 最上明美さん

32

クローズアップ衛生管理者r

人がいい状態で働くことが使命

住友金属工業株式会社 和歌山製鐵所 生田善太郎さん

33

レファレンスコーナー

働く女性、睡眠時間に比例せず、90%が睡眠不足 「働く男女の睡眠意識調査」・ライオン株式会社

34

メンタルヘルス・メモランダム

パワー・ハラスメントについて

杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室 角田 透

35

最近の安全衛生関連通達

編集後記

高田 昂

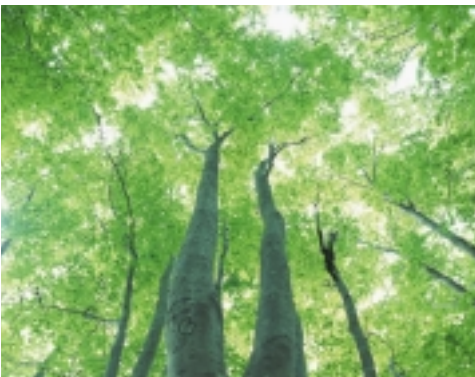
36

ことば

「信実と誠実となくしては、礼儀は茶番であり芝居である」 (新渡戸稲造『武士道』)。

コミュニケーションをはかる度、礼儀の重みを感じる。

しかし、多忙などを理由として、礼儀の重みを感じない。それはまさに芝居の科白のようで、時に滑稽なものにすら映る。かくいう自身は、礼節をもって人に向き合っているかどうか。人の振りみて我が振りなおせ、礼を実践していきたいものである。



やはり、この から めなければならないだ う。
まだ に新しい、一 年の に発生した中 地 の
ことである。それは地元企業の 産業医を める庭
山 さんが、 口 医師会長のとき
の 来事だった。 医師会の リ であるこの地域は、
新 中 部に し、 23 の約 の広さに
する。 は、まさにこの地域内でのことである。
医療関係者の責任者として しなければならな
った庭山さんは、それこそ る時 もない どの
が続いた。しかし、自 の事情よりも当時の復興事業

に従事していた作業者の健康状態を気 いながらの
日であったことを語り める。

「土木関係の復興事業関係者は、まさしく 重労働
を なくされました。作業を中 するわけにも行き
ませんでしたから。事故も気になりましたし、 れ
な本来業 以外も多く手掛けなければなりませんで
したしね。中でも地場の建設会 の中 管理 は、復興
の要 と実 の作業者との で、スト ス の状
態ではなかったかと思います。そんな状態にあっては、
医療関係者としては作業者らの安全・健康に気を付け

ることが第一でした。まだまだ完全復興されていませんが、大きな事故もなくここまで来られたことは、関係者の努力の賜物です」と当時の様子を語ってくれる。

このように地元の地域医療に尽力する庭山さんに、産業医になったきっかけを聞いてみるが、「気が付いたらいくつもの事業場の産業医になってました」と笑うが、経験はすでに30年を超える。機械製造業の事業場から建設業、食品製造業、地方公共団体と様々な業種の事業場の産業医を担当する。「多岐にわたる業種、事業場の現場や事情、作業者と触れ合うことによって多くを学びました。産業医経験は医師としてのひとつの財産でもあります」と控え目である。

今でこそ夏場の熱中症対策は広く浸透されたようだが、庭山さんには苦い経験もある。20年程前ある大手企業のスポーツ大会でのことだ。暑さ対策として熱中症を事前に指導していたものの、当日、熱中症症状を訴える者が発生した。「幸い、大事には至りませんでした。冷や汗をかきました。この地域は盆地で夏は暑いので予測はしていましたが…。以降、特に屋外作業の土木作業関係者には徹底しています」。

そして、多くの事業場を見て来ての実感として、「産業保健の実践に限らず、企業それぞれに文化・風土があり、考え方に相違があります。それを理解しないで画一的に進めれば、企業側は受け入れてくれません。事業者として法令などを守るのは当然ですが、一方的な押し付けでは、反発こそあれ協力などは得られません。企業事情に合わせた対応が重要になります。それには、現場を見る、事業場の実態を把握することが産業医として欠かせない重要なことのひとつだと思います。労働現場は一様ではないですし、産業構造も大きく変化していて労働態様も30年前と様変わりしています。現場を見続けて、勉強しなければ勤まらないのではないのでしょうか」との語り口調には長年の苦勞がうかがえる。

しかしながら、時には経営トップに苦言を呈することもあるという。「企業のトップには責任があります。ですから健康の自己管理を強く訴えることもあります。企業にとって何がベターなのかを常に考えながらの産業医活動でなければなりませんから、責任は重大です。契約しているわけですから、辛口のお願ひもし

なければなりません。そうでなければ責任を負えません。ですからトップの理解を得ることは産業医活動の重要な要素ですね。常に心掛けて実践してきました」と自信がうかがえる。さらに、「近年、企業は世界規模で動いていますよね。海外に生産拠点を移す事業場もあれば、外国人の研修を受け入れている企業もあります。そこでの人の移動・交流の場面で産業保健が直面する問題点が少なからずあります。国の違い、文化の違いを理解しないまま日本的考え方のみで進めると失敗しますね。産業医は常に勉強しなくてはと痛感します」とも。また、地域医療に従事することを目指す“医師のたまご”である研修医の受け入れも行っているが、「必ず産業現場を見せることにしています。現場など見たことがない医師には新鮮に写りますし、経験することもないです。地域医療とは違う分野の医師になったとしても、労働現場を体験することは非常に意味のあることだと考えています」と自他共に現場に足をを入れることを課している。

さて、オーバーワークと言ってはばからない庭山さんに、産業医としてのやりがいについて聞いてみると、「産業医としてのやりがい？うーん、生活の一部になっているから



らなあー」と視線を宙にやりながら、「とにかく楽しくやっています。楽しくやれるように工夫もしていますが」と産業医活動そのものがやりがいのようにも聞こえる。

庭山さんは、文化・芸術・音楽にも造詣が深く、地域の文化活動もリードし、自宅を国内外の芸術家達に開放している。備え付けの“宿帳”にはすでに名を成した芸術家の自由な書き込みも見られる。「さながら梁山泊です。好き勝手に使ってもらっています。彼らとの談義は楽しく、活力さえもらっている思いです」と元気はつらつである。豪雪地ゆえ安全第一と四駆の外国産車で疾駆する姿に違和感がない。